

## 101年目からのレールを引くのは私たち

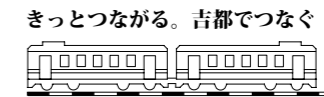
先に紹介した吉都線の思い出は、小林駅100周年祭へ寄せられたものです。ほかにも多くの手紙が寄せられていて、その全てに吉都線への感謝と、ずっと続いてほしいという思いがありました。

また、100周年を盛り上げようと立ち上がった人や、鉄道の魅力を知り、楽しむ人たち。彼らは、吉都線には歴史と魅力があり、これを契機として、小林市を盛り上げたいという強い思いにあふれています。

吉都線は、たくさんの人とその思いをつないでいます。これは、どこまでも続く線路と同じ。100周年を始発とし、101年目からのレールを引くのは、これから生きる私たちです。



写真／鉄道好き河崎瑛人さんと母万紀子さん



# PASSION

## 実行委員会の思い

100周年を契機に、小林市を盛り上げたい。そのために行えること、やるべきことは何でしょうか。吉都線100周年記念事業小林市実行委員会の吉村秀昭会長に話を聴きました。

## この事業で本当に市民が主役となって小林市が元気になれば



吉都線100周年記念事業  
小林市実行委員会 会長 吉村秀昭 さん

が主役の組織が生まれる。この事業で小林市が少しでも元気になるきっかけを作れたらうれしいです。

先日、8年ぶりに行った復活土曜夜市では、市民活動支援センターの仲介のもと、中央通商店街、小林商工会議所、小林青年会議所そして小林市の協力で開催にこぎつけました。土曜夜市の目的は、商店街に足を運んでもらい、その魅力を再認識してもらうこと。来場者が1000人を超え、とても盛り上がりました。

また、私たちは、高校生とのかかわりを深めています。小林高校美術部に、壁画を描いてもらったり、小林秀峰高校生にポスターとのかかわりをデザインしてもらいました。こうして交流を深めることで、学生に地元への記憶を残し、将来につなげるのが私たちの世代に必要なことだと思います。こうして、100周年と私たちの活動を契機に、吉都線と小林市をみんなで盛り上げたいです。

## みんなで吉都線を考えたい

私たち吉都線100周年記念事業小林市実行委員会は、イベントの開催や観光列車を誘致するなどして、市全体を盛り上げようと総勢50人で活動しています。

吉都線の利用者は昭和59年をピークに平成21年には約半分に減少。生活列車としては限界を迎え、路線の廃止も懸念されます。この流れを食い止めるためには、観光面での乗車率を上げる

ことが必要だと考えました。そのためにはまず、みんなが吉都線に乗ることから現状と魅力を知り、これからの吉都線を共に考えていきたいです。

本市の経済状況は、口蹄疫や新燃岳の噴火で冷え込み、観光客は減少しています。そこで、100周年を機に市民協働により、いろいろなイベントをいろいろな場所で行うことで経済の復興と地域の活性化を目指します。

す。さらに、このような取り組みを通じて、観光列車の誘致につなげたいと考えています。

## 100周年で生まれた、新たな協働で小林市を元気に

実行委員会の目的は3つ。「小林市全体の活性化、吉都線の路線維持、新たな市民協働の確立と活力ある地域づくり」です。100周年を「一過性の行事とせず、大きな目的達成への手段と位置付けています。」

これまでの取り組みには、市民活動団体などを支援する小林市市民活動支援センターと、行政内の組織を横断して作られた職員のプロジェクトチームも参加しています。市民を中心とした三者が連携する中で、新たな市民協働の形が生まれました。協働とは各種団体の強みを生かし、目的達成のために共に汗をかき働くことだと思います。これが派生して新たなまちづくりの形となり、本当に市民